

貿易手続きの実態とデータ連携基盤への 期待・要望について (海貨事業者の視点から)

令和2年3月18日

内外日東株式会社

1. 荷主からのS/I, I/V, P/L, ブッキング依頼の受信

- 現状:

複数のプラットフォーム(NACCS,サイバーポート、TradeWaltz等)でのデータ受渡、荷主と海貨事業者間の独自EDI仕様による受渡、荷主から紙、FAX等での受渡と様々な受渡方法がある。様々な受渡方法にそれぞれ対応していくと自社システムの開発等が発生し、コストと時間が掛かる。

- 課題:

荷主と海貨事業者とのデータ受渡方法を単一のプラットフォーム上で完結出来れば、荷主と海貨事業者でメリットとなる。しかし、多くの荷主が同一プラットフォームに参加しなければ、下流の事業者のメリットに繋がらない。

- 要望:

上流に位置する荷主が単一のプラットフォームに参加するメリットを享受すること。同一のデータ受渡し方法を採用し、下流の事業者の効率化やメリットに繋がること。多くのサイバーポート・ユーザーのメリットに繋がる流れを作り出すことが重要である。

2. 船社へのブッキング

- 現状:

船社毎のWebサイトにログインしブッキングする。ブッキング内容の修正処理を電話で行う。

- 課題:

各船社のブッキング作業、入力項目が異なり、手間と時間が掛かっている。

自社システムからAPI経由で船社システムへブッキング依頼が出来ない。

ブッキングNO.の回答を船社システムからAPI経由で自社システムに取込むことが出来ない。

- 要望

全ての船社が参加する共通ブッキングプラットフォーム、共通API仕様が実現することを希望。

3. コンテナ・ピックアップオーダー

- 現状:

船社毎のWebサイトにログインしピックアップオーダーを入力するか、FAX送信による紙による依頼となっている。海貨業として船社への依頼方法がほとんどシステム化できていない。

- 課題:

船社ピックアップシステムが複数あり依頼方法が統一されていない。システム化を図るためには其々に自社システム開発が発生し、コストと時間も掛かる。

- 要望

自社システムからAPI経由で船社システムへピックアップオーダーを出すことが出来れば業務の効率化が図れる。全ての船社が参加する共通ピックアップオーダーのAPI仕様が実現することを希望する。

4. PF間のデータ連携

- 現状

港湾の輸出入業務についてはNACCSと連携させて業務効率とシステム化を進めている。
自社システム、又は、net-NACCSを活用して輸出入業務、通関申告業務を実行している。

- 課題

既にNACCSにある業務が複数の基盤で同じ業務機能を有している。サイバーポートやその他PF(基盤)で業務の利用が進まないことを危惧する。

- 要望:

NACCS、サイバーポート、その他基盤で重複する業務を統一し、登録されたデータがそれぞれの基盤で連携され、広範囲な業務に共用されることを希望する。

5. (参考) デジタルプラットフォーム (PF)

1. NACCS

NACCS (Nippon Automated Cargo and Port Consolidated System) は、入出港する船舶・航空機及び輸出入される貨物について、税関その他の関係行政機関に対する手続及び関連する民間業務をオンラインで処理するシステム。

2. 貿易手続データ連携システム

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)

ブロックチェーン技術を活用し、貨物や輸出手続きに関するデータを管理・共有することで、手続き業務に関わる事業者の生産性向上と輸出リードタイム短縮を目指す。

3. 貿易情報連携基盤 (TradeWaltz)

NTTデータ(株)、銀行・保険・総合物流・輸出入者等の各業界を代表する13社

ブロックチェーン技術を活用した情報連携基盤を構築し、金融分野まで含めた貿易手続きの効率化、迅速化、利便性の向上を目指す。

4. 船社系PF

①トレードレンズ、②グローバル SHIPPING ビジネス・ネットワーク、③マースクPF、など。